

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要しょう乱の概要&gt;

- 14日は、低気圧が発達しながら千島近海へ進み、高気圧が日本海西部へ移動する。
- 15日は、高気圧が北日本から日本の東へ移動し、前線を伴った低気圧が東シナ海から西日本付近へ進む。
- 16日から17日にかけて、低気圧が発達しながら本州南岸から千島近海へ進み、前線が沖縄付近を通過して日本の南へのびる。
- 18日は、低気圧が関東沖で発生し、高気圧が大陸から東シナ海に張り出す。

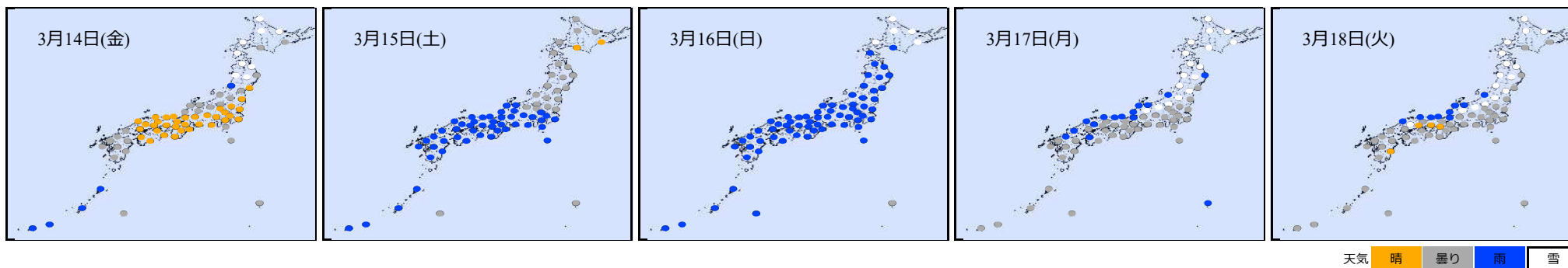
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 14日にかけては、北日本では千島近海へ進む低気圧の影響で荒れた天気となり、低気圧の発達によっては大荒れとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

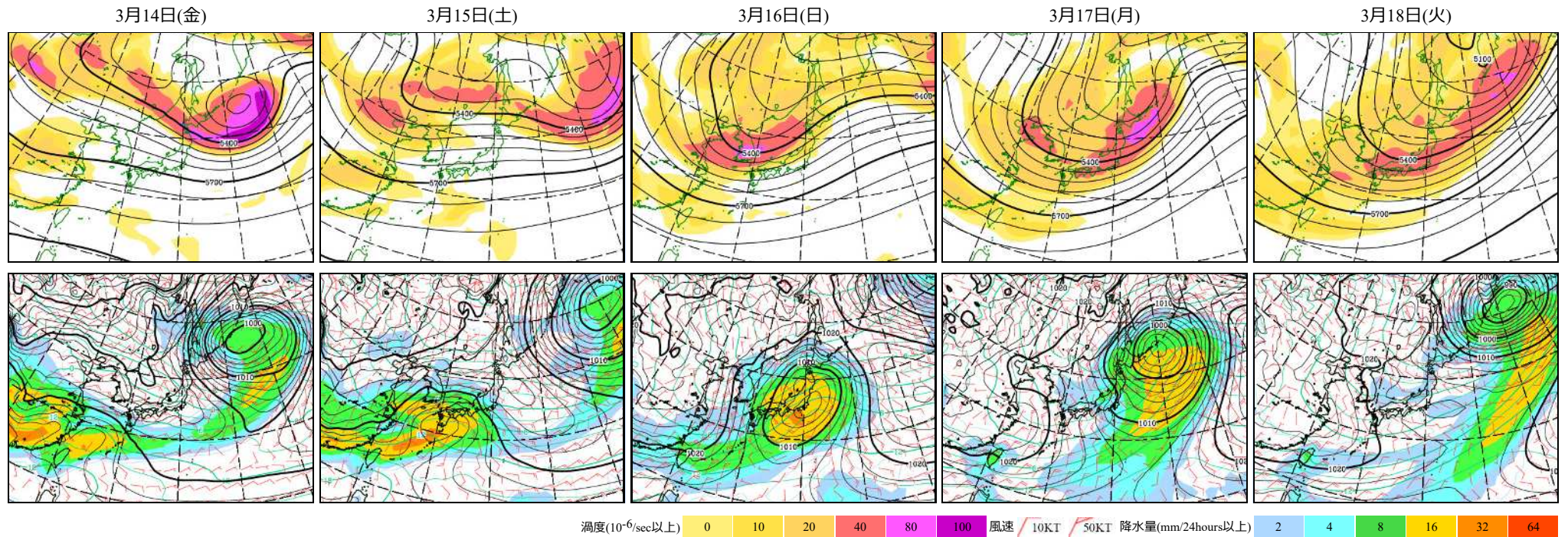
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

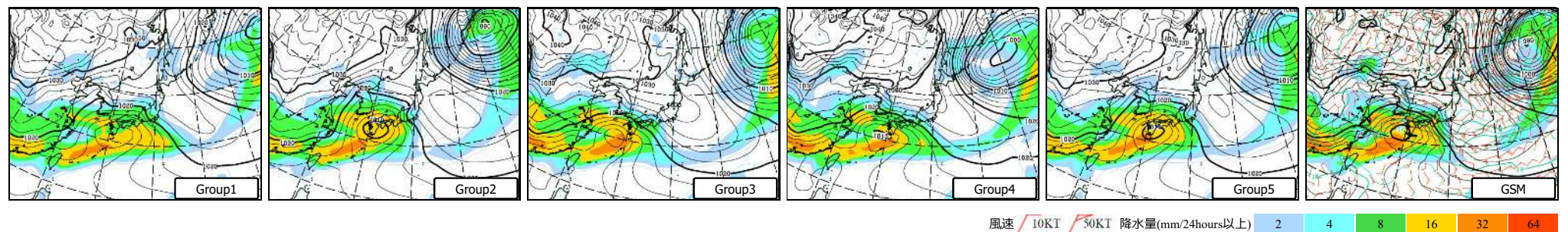


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、14日は晴れる所が多いがその後は曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月15日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、14日は千島近海で発達する低気圧の東進が遅くなり、北日本では西高東低の気圧配置が強まった。15日から17日にかけて本州の南岸から千島近海へ進む低気圧のコースが南寄りになり若干遅くなった。
- 各モデルともそれぞれ歩み寄り形で揃ってきた。
- スプレッドは期間の終わりに大きくなり、5400mの特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。